

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名（ 杉の子特別支援学校 石薬師分校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす
(2)	育みたい 生徒像	・ 自立と社会参画をめざし、主体的に取り組む子ども ・ 自己肯定感や他者を思いやる気持ちを持ち、自他の命を大切にし、人権感覚あふれる子ども
	ありたい 教職員像	・ 豊かな人間性と高い人権感覚を有し、いじめや体罰を許さず、学校の課題に情熱をもって粘り強く取り組むことで生徒のみならず、地域や保護者からも信頼される教員 ・ 生徒の障がいの様子に応じて、入学前から卒業後までの一貫した指導・支援に保護者と連携して主体的に実践できる教員 ・ 他の教職員と協調して学校の抱える様々な課題の解決に向けて、積極的に取り組むとともに地域の各学校・関係機関との信頼関係を構築できる教員 ・ 防災対策や防災・防犯教育に積極的に取り組み、生徒が安心・安全に過ごせる学校づくりを推進していく教員 ・ 知的障がい教育に関わる実践研究に真摯に取り組む、生徒の成長を保護者と共に喜び合える教員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 ・ 自立と社会参画に向けて、様々な体験的な学習を経験して、卒業後の生活に必要な力や主体性を育んでほしい。 ・ 一人ひとりが活かされる仲間づくりを推進してほしい。 〈保護者〉 ・ 生徒一人ひとりのニーズに応じた自立と社会参画に向けた教育と進路実現を推進してほしい。 ・ 安心・安全な学習環境を維持継続してほしい。 〈地域の学校・関係機関〉 ・ 地域における特別支援教育の充実・推進に向け、センター的機能を発揮してほしい。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 ＜保護者＞ ・ 生徒一人ひとりのニーズに応じた安心・安全な教育の実施 ＜地域の学校＞ ・ 交流を通しての共生社会の実現に向けた教育の推進 ・ 地域の特別支援教育のセンター的機能の発揮 ＜地域の関係機関(企業・福祉施設等)＞ ・ 情報提供や障がい者理解に向けた支援の実施 ＜地域社会＞ ・ 教育活動の公開と情報の提供	連携する相手への要望・期待 ＜保護者＞ ・ 目指す学校づくりへの理解と協力 ＜地域の学校＞ ・ 交流を通じた様々な活動や体験の協力 ＜地域の関係機関(企業・福祉施設等)＞ ・ 現場実習の受け入れ及び就労実現 ・ 職業に係る授業の情報やノウハウの提供 ＜放課後の施設利用や卒業後の入所＞ ・ 就労や施設利用に係る情報の提供 ＜地域社会＞ ・ 本校の教育活動の理解と協力

(3) 前年度の学校関係者評価等		- 新型コロナウイルス感染症の対応等に引き続き留意して、生徒が安全に安心して学ぶことができる環境を整えてほしい。特に、新型コロナウイルス感染症の対策では、学校と保護者との円滑なコミュニケーションを図ることについて、両立できるよう取り組みをお願いしたい。 - 地域との連携の図り方を今後の課題としてほしい。
(4) 現状と課題	教育活動	- 生徒の障がいの重度・重複化、多様化に対応した指導支援を行うこと。また、新しい学習指導要領に対応し、本校との連携した一貫性のある教育課程を編成し、目標設定と評価が一体となる教育実践を行うこと。さらに、キャリア教育の視点を踏まえ、卒業後の生活を見通した系統的な学習を推進することが課題である。そのため、家庭や関係機関との連携強化、専門性向上の研修、授業研究、事例検討・ケース会議等の充実に努める必要がある。 - 保護者からも人権教育、命を大切にする教育、性に関する教育、対人関係能力の向上の取組、交流及び共同学習の充実が求められており、系統的・計画的・組織的な実践を行うことで、いじめを許さず、自己肯定感を高める取組を推進していく必要がある。 - 新型コロナウイルス感染症への対応の一つであるオンライン教育に関して機器の整備や実施に向けた研修などを進め、生徒の学びの継続を図る必要がある。 - 加速化する教育の情報化の対応に向け、ICT機器の活用推進計画を作成し、活用事例の蓄積を行い、全教職員でICT機器の活用を進めていく必要がある。 - 自立と社会参画を目指す教育の充実に向け、生徒の3年間の学校生活を見通し、現場実習等で得られた成果と課題も踏まえて取組が進められるように作業学習の充実に図っていく必要がある。
	学校運営等	- 個々の教職員が不祥事を他人事とせず、コンプライアンス意識を持ち続けながら教育活動にあたるために、信頼される学校であるための行動計画を作成し、取り組む必要がある。 - 地域の学校や関係機関等への研修や支援・情報発信が求められており、特別支援教育におけるセンター的機能の更なる充実に努める必要がある。 - 新型コロナウイルス感染症などに対応を含めた緊急時の対応のために、組織力を向上させる必要がある。また、大規模災害を想定した防災訓練・防災教育を実施し、教職員の対応力向上を推進する必要がある。また、危機管理に対する保護者との連携強化に努めると共に石薬師高校と連携が図られた危機管理マニュアルの整備が必要である。 - 杉の子の本校や関係機関（鈴鹿病院、石薬師高校等）、保護者との連携や情報共有の推進、地域とのつながりを強化し、開かれた学校を意識した教育活動を展開し、推進する必要がある。 - 年代や教職経験が様々な教職員が協力し助け合い、働きやすい職場づくりが求められている。また、業務内容の見直しを進め、総勤務時間の縮減に向けた取組を推進していく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	- 地域の社会資源を活用した職業教育の内容の見直しを進める。また、令和4年度の高等部新学習指導要領の本格実施を受け、生徒の障がいの重度・重複化、多様化に対応できるよう、ICT教育も推進しながらつけさせたい力、学ばせたい内容を整理する。 - 令和5年度の本校中学部の石薬師分校移転を見据え、もう一度本校小中学部との系統性も視野に入れながら新たな教育課程を編成し、卒業後の生活や地域への社会参画を見通したキャリア教育を推進する。 - 作業学習の作業種や班編成を再点検し、カリキュラムマネジメントの考え方を反映し、各教科等の指導内容やその関連性に関して教務を中心に計画的に点検を進めると共に全教職員が共通理解できるように校内研修を進めていく。 - 生徒同士が高め合ったり、協力したりして自身の目標を達成することで自己肯定感が高まるような系統的・計画的・組織的な人権教育、命を大切にする教育、性に関する教育、対人関係能力の向上の取組を推進する。 - キャリア教育の視点を踏まえ、学習指導要領の教科目標や内容の対応等、日々の学習と校内行事の関連性を再整理した学習活動に取り組む。
------	--

- ・令和5年度の本校中学部の移転に備えて、施設整備や校内体制の構築に向けて組織的に検討を進めていく。
- ・組織的な実践力・対応力を構築し、専門性や授業力向上のため、研修機会の充実を図る。また、その成果を地域の学校や関係機関等への研修や支援・情報発信することで還元し、特別支援教育におけるセンター的機能の充実を図る。
- ・大規模災害を想定した防災訓練・防災教育を実施し、教職員の対応力向上を図る。また、危機管理の取組を保護者と共有し連携を推進することで、特別なニーズのある生徒に対する災害時の支援体制等を一層強化していく。
- ・本校、関係機関（石薬師高校等）、保護者との連携や情報共有の推進、地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する。
- ・働きやすい職場づくりや総勤務時間の縮減や業務の偏りの解消のため、職場内で協力・応援体制がとれるよう、各分掌や委員会、学年集団が業務の精選に努める。その上で、生徒や保護者とのコミュニケーションを大切にし、信頼される学校を目指す。
- ・管理職がリーダーシップをとり、いじめや体罰を許さず、相談しやすい職場環境づくり、ハラスメントのない職場づくりに取り組む。
- ・信頼される学校であるための行動計画に基づき、不祥事の根絶と県民からの信頼回復に向けた組織運営ができるよう、年間を通じた定期的な校内研修等に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
○キャリア教育の推進と新学習指導要領への対応	(1) 生徒の生活年齢や障がいの状態に応じた系統的なキャリア教育を推進するため、杉の子特別支援学校版「キャリア教育プログラム」を活用した授業実践を展開する。 【活動指標】 ・卒業生の話聞く会の実施(1回) ・清掃技能検定の実施(2回) ・接客技能検定の実施(1回) ・看護介護の実技講習会へ参加(2名以上) ・みえアビリンピック大会へ参加(3名以上) ・農業普及員による教員向け研修の実施(1回) ・職業科の学習成果の発表として販売活動の実施(2回) ・漢字及びワープロ検定の実施(年2回) (2) 学校卒業後に豊かな生活が送ることができるよう、現在の杉の子特別支援学校版「キャリア教育プログラム」を小学部から高等部までのつながりの観点から見直しを行う。 ・キャリア教育プログラムの見直し検討会を実施(1回以上) (3) 令和4年度の高等部新学習指導要領の本格実施に向け、「社会に開かれた教育課程」の編成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業について教務部を中心に現在の授業形態及び実践内容を見直す。今後、どのようなことを意識して授業を組み立てるのか、学習指導要領解説本を確認するとともにポイントを整理し、全教職員で共通理解を図る。また、令和4年度の新教育課程の実施に向け、授業の学習グループ編成や授業計画について、多角的に検討し、授業の円滑な移行ができるよう準備を進める。 【活動指標】	・実施済 ・実施済 ・実施済 ・参加済 ・参加済 ・中止 ・実施済 ・ワープロ検定実施 - 漢字検定中止 ・実施済	

	・教育課程検討委員会での検討(3回以上) ・新教育課程授業準備会(4回以上) ・新教育課程実施に向けた職員研修の実施(1回以上) (4) 個別最適な学びを実現するため、また、生徒の可能性を伸ばし、生活空間や参画できる社会を広げるため、タブレット端末等のICT機器を活用した授業実践を行う。 【活動指標】 ・各教科等の学習において、ICT機器を活用した取組を実施(各自1回以上の取組実施) ・国語及び数学の学習において、タブレット端末を用いた学習を実施(学習グループで1回以上の取組実施)	・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施済	
○自立と社会参画を目指した計画的・組織的な取組の推進	(1) 生徒の適性や希望に応じた進路実現に向け、計画的・組織的な校内実習及び現場実習を実施する。 【活動指標】 ・校内実習の実施(2回) ・チェックリストを活用した職業適性把握の実施(1回以上) ・現場実習の実施(3回) (2) 学校卒業時に円滑な移行が図れるよう、企業や福祉等の関係機関との連携した取組を実施する。 ・3年生対象進路個別懇談会の実施 ・3年生対象個別の移行支援会議の実施 (3) 生徒及び保護者が卒業後の生活の見通しを持つことができるよう、進路指導に係る情報提供を積極的に行う。 【活動指標】 ・保護者対象進路説明会の実施(2回) ・保護者対象進路見学会の実施(1回) (4) 石薬師分校の取組が近隣の企業や福祉事業所に理解されるよう、見学会等を実施し理解啓発を図る。 【活動指標】 ・パートナーシップ会議の実施(1回) ・石薬師分校体験研修の実施	・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施済 ・今後実施予定 ・実施済 ・中止 ・実施済 ・実施済	
○「命を大切に する教育」 「人権教育」 「道徳教育」 の推進	(1) 生徒が交通事故の当事者とならないよう、自転車安全点検の実施や交通安全指導を実施する。 【活動指標】 ・自転車通学生徒に対して自転車安全点検の実施(3回) ・自主通学生徒に対して通学指導の実施(3回) (2) 生徒がスマートフォンやインターネット上でトラブルに巻き込まれることがないよう、情報モラル学習を実施する。 【活動指標】 ・SNSスマホ教室を実施(2回) ・スマートフォン等の利用時のマイルールを作成(参加生徒) (3) 生徒が命を大切にし、いじめや暴力を許さず、相手を思いやる心や個性を認め尊重する態度を育む教育活動に取り組	・実施済 ・実施済 ・実施済 ・作成済	

	む。 【活動指標】 ・人権サポートブック等を活用した学級指導を実施(3回) ・いじめ防止学習会の実施(2回) ・スポーツレクリエーション集会の実施 (4)いじめの認知が適切にかつ組織的に把握できるよう、生徒に対してアンケート調査を実施するとともに、相談しやすい環境づくりを整える。 【活動指標】 ・いじめの早期発見のため生徒対象アンケートを実施(3回) ・いじめの認知について教員対象の研修を早期に実施 ・スクールカウンセラーによる面談を実施(8回) (5)近隣の学校、保護者、地域へ石薬師分校の取組が理解されるよう、間接的な交流や地域への掲示物、地域での販売活動など理解啓発を行う。 【活動指標】 ・生徒の作品やメッセージの交換など間接交流を実施(1回以上) ・職業科の学習成果の発表として販売活動の実施(2回) ・近隣の福祉事業所と連携した職業科の学習を実施(農福連携を含む)(2回) (6)学校卒業後の余暇活動の充実及び生涯学習につながるよう、社会や地域で豊かに生活を送るため、みえ高文祭の芸術活動や様々な県の行事、大会などへ積極的に参加する。 ・みえ高文祭へ作品を出展 ・とこわか大会 学校観戦を実施 ・とこわか国体 馬術競技の様子を見学 ・部活動における競技大会へ参加 ・障がい者スポーツ大会へ参加	・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施中 ・実施済 ・実施(文化祭等) ・実施済 ・実施済 ・大会が中止 ・国体が中止 代替競技大会観覧 ・参加済 ・大会が中止	
--	--	--	--

改善課題

<キャリア教育の推進と新学習指導要領への対応について>

○校内技能検定の計画的な実施、看護介護の講習会への参加など、生徒の障がいの状態に応じた系統的なキャリア教育を実践することができた。検定の取組では、校内の結果をもとに県大会、全国大会への参加とつながり、生徒の意欲向上を引き出すものとなった。また、ものづくりで製作した製品を文化祭で販売し、保護者へ職業の学習の様子を伝えることができた。

●引き続き、生徒の社会参画が実現可能となるよう、地域の社会資源を活用した職業教育の内容の見直しを進める必要がある。

○令和4年度の高等部新学習指導要領の本格実施に向け、校内で年間指導計画の作成手順を示し、各教科等の年間指導計画を作成した。また、令和4年度に新たな形で開始する職業及び生活コースの授業内容の検討を進め、全教員に周知し共通理解を図った。

●今後は、各教科の目標と観点別学習状況の評価について、校内で周知し共通理解を図る必要がある。

○生徒の個別最適な学びを実現するため、タブレット端末等のICT機器を活用した授業実践に各教員

が1回以上取り組んだ。また、外部講師による研修会を開催し、生徒が機器を活用することで豊かな学びにつながることを実技講習から直接学ぶことができた。

- 今後、さらにICT機器を活用した教育の実践が求められる。そのため、教育内容の充実だけでなく、機器の管理や個人情報の取り扱いを含め、一元化した対応を進める必要がある。

<自立と社会参画を目指した計画的・組織的な取組の推進について>

○計画的・組織的な校内実習及び現場実習により、8名の生徒が一般事業所へ就労することができた。福祉事業所を利用する生徒においては、サービス内容を生徒本人及び保護者へ丁寧に説明し、現場実習を経て進路を決定することができた。また、1年生は校内実習期間中に職業適性チェックリストを実施することで、現在の状況や適性を把握することにつながった。

- 引き続き、生徒の進路希望実現のため、年間計画に位置付けた計画的・組織的な校内実習及び現場実習を実施する。また職業アセスメントの仕組みを整え、生徒の適性を把握したキャリア教育を推進する必要がある。

<「命を大切にする教育」「人権教育」「道徳教育」の推進>

○いじめ防止学習会、学級における人権学習、インターネットの危険性を知るスマホ安全教室、通学指導などを通して、生徒が自分自身やお互いを大切にする気持ちに気づかせ、命を大切にする取組を実施した。

- 引き続き、相手を思いやる心や仲間づくりを意識した取組を継続する。

○学校卒業後の余暇活動の充実及び生涯学習につながるよう、みえ高文祭の芸術活動や県の行事や大会などへ積極的に参加した。みえとこわか大会が中止となったが、国体代替競技が開催され、馬術競技の見学へ参加することができた。また、みえ高文祭への作品の出展及びサッカー大会へ参加することができた。

- 引き続き、様々な県の行事、大会など機会をとらえて積極的に参加していきたい。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
○センター的機能の発揮及び充実	(1) 鈴鹿、亀山地域の特別支援教育を推進する役割として小・中学校及び高等学校、関係機関職員などを対象とした特別支援教育に係る研修を実施する。 【活動指標】 ・石薬師分校体験研修の実施 ・石薬師分校夏季研修講座の実施 (2) 高等学校における特別な支援を必要とする生徒を支援する役割として、該当校と連携し、必要な指導支援を実施する。 ・生徒の授業参観及び行動観察の実施(1校以上) ・該当校の情報交換会等に参加(随時) (3) 円滑な中学校からの移行や学びの連続性を意識した教育内容の提供を目指すため、鈴鹿、亀山地域の全中学校の特別支援学級担当教員との連携した取組を行う。 【活動指標】 ・鈴鹿、亀山地域の中学校との情報共有(電話での聞き取りを含む)(各校1回)	・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施済	

	・鈴鹿、亀山地域の中学校との研修会を実施(3回)	・実施済	
○組織的な実践力、対応力につながる専門性の向上	(1) 自立活動を意識した授業を実践するため、全体研修会等を実施するとともに、授業改善シートを用いた授業改善に取り組む。 【活動指標】 ・自立活動全体研修会の実施(2回) ・授業改善シートを用いた授業改善の実施(各グループ2回) ・外部専門家を活用した研修会の実施(2回) (2) 生徒指導に関する生徒指導研修を行うとともに、生徒への接し方やことばがけについての具体的な知識を得ることで教職員の資質向上を図る。 【活動指標】 ・生徒指導研修会(情報共有の場)を早期に実施(1回) ・スクールカウンセラーによる研修の実施(1回以上) ・人権サポートブック等を活用した研修の実施(2回以上)	・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施済	
○危機管理体制の強化	(1) 生徒の疾患、特性について全職員で共通理解を図り、生徒が安心して学ぶことができる環境を整える。 【活動指標】 ・アレルギー対応訓練及び救急救命訓練の実施(1回以上) ・校内安全点検の実施(3回) (2) 危機を予測した組織的な対応を目指すため、防災ノートを活用した学習を進めるとともに、教職員向け図上訓練を実施する。 ・下校時災害対応訓練(1回) ・防災ノートを活用した防災訓練及び学習の実施(2回以上) (3) 新型コロナウイルス感染症対策では、県や地域の感染状況に応じた対応できるよう、安全を第一に考えた教育活動について校内で協議するとともに必要な対策を講じる。 【活動指標】 ・校内における活動の見直し(随時) ・保護者に対し、わかりやすい啓発文書等の発出(随時) (4) 信頼される学校づくりを進めるため、管理職のリーダーシップのもと「学校信頼向上委員会」を開催し、常に「公の奉仕者」であることを意識できるよう、定期的な研修を行う。 【活動指標】 ・職員対象コンプライアンス研修(10回以上) (4) 教職員が発する言動が生徒に与える影響について日頃から意識できよう、教職員が確かな人権感覚と指導力をもって、教育活動を実践できるよう、研修を行う。 ・人権サポートブック等を活用した研修の実施(2回以上) ・教職員向け人権だよりの発行(6回以上) ・人権教育推進のための研修会を実施(1回)	・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施済 ・随時実施 ・随時実施 ・実施済 ・実施済 ・実施済	
○保護者や地域との連携	(1) 保護者や地域へ情報発信を積極的に行うとともに、PTAとの一層の連携強化を図る。		

	【活動指標】 ・様々な媒体を活用した情報の提供及び発信(学校ホームページによる発信を含む)(10回以上) ・学校での取組内容を学校通信として発行(6回以上)(いじめ防止学習、スマホ教室、防災防犯学習など) ・職業科の学習成果の発表として販売活動を実施(2回) ・PTA活動として工芸班の成果物を用いたタイアップ商品を製作 ・授業参観の実施(2回) ・PTA新聞の発行(2回) ・石薬師市民センターへの通信等を提供(3回)	・実施済 ・実施済 ・実施済(文化祭等) ・実施済 ・実施済 ・実施済 ・実施済	
○働きやすい職場作り	(1)職場環境や組織風土の状況を把握するため、満足度調査を実施し、働きやすい職場環境づくりを進める。 【活動指標】 ・職員アンケートによる「校務へのやりがい・楽しみ」を感じている教職員(80%以上) (2)校内組織についてより適切で無駄なく効果的に運営できる組織になるべく検証し、必要な調整を行う。 【活動指標】 ・年度末総括の実施及び行事・業務の調整 (3)会議の効率化と定時退校日の確実な実施するとともに、職員のワークライフ・バランスを意識した職場作りを行う。 【活動指標】 ・月平均の超過時間 30 時間以下の教職員数(30/34) ・年間の超過時間が 360 時間以下の教職員数(0/34) ・勤務が月 45 時間を超える職員数(0/34) ・職員の年間の休暇取得日数 10 日以上(34/34) ・定時退校日に定時に退校した教職員の割合(90%以上) ・休業日に部活動を休みにできた割合(90%以上) ・放課後の職員会議及び各種委員会が時間内に終わった割合(80%以上)	・85%により達成 ・実施済 ・達成 ・未達成 ・未達成 ・達成 ・達成 ・達成 ・達成	

改善課題

<センター的機能の発揮及び充実>

○新たな取組として鈴鹿、亀山地域の全中学校の特別支援学級担当教員を対象にオンラインによる研修会及び情報交換の場を持った。毎回、中学校から10人程度が参加した。情報交換では必要に応じて特別支援教育に係るアドバイスを行うなど、鈴鹿・亀山地域とのつながりが深まった。

●今後も中学校が求めていることなどを把握しながら、内容の充実を図る必要がある。また高等学校への支援では、近隣の高校から依頼されるよう石薬師分校からのアプローチが必要である。

<組織的な実践力、対応力につながる専門性の向上>

○昨年度に引き続き、外部専門家を活用した自立活動の指導支援の充実に取り組んだ。教職員の日頃の悩みを専門家であるPTから直接助言を受けることで、教職員の特別支援教育に係る専門性の向上へつながった。また組織のチームで生徒と接することができるよう、生徒指導に関する生徒指導研修を早期に実施し、指導・支援に係る共通理解を図った。生徒の関わり方では、教員同士で指摘できるよう、スク

ールカウンセラーを講師とした研修会や生徒への接し方のチェックシートを定期的実施した。

●引き続き、生徒指導に関する研修や生徒の関わり方について振り返る機会を定期的に設定する。

＜危機管理体制の強化＞

○新たな取組として、生徒が登校中の犯罪被害を回避できるよう、「通学路安全マップ」を作成し生徒への防犯教育を充実させることができた。また、教員を対象とした定期的なコンプライアンス研修を実施することで、公務員という立場や自分の指導支援を意識して振り返ることができた。

●引き続き、防災・防犯教育の充実を図る。県民からの信頼確保と、コンプライアンスを自分ごととしてとらえられるよう研修を継続する。

＜保護者や地域との連携＞

○PTA活動として、工芸班の成果物（さをり織り）を用いたタイアップ商品を製作し、文化祭で販売した。石薬師市民センターへの通信等を掲示し、石薬師分校の取組を紹介した。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大を懸念し、開かれた学校の実現には至らなかったが、文化祭では保護者の参観時間帯の設定や動線を工夫することにより、保護者の参観を実現することができた。保護者に自分の子どもの学習の様子を知っていただくよい機会となった。

●保護者や地域との連携について、引き続き検討する必要がある。

＜働きやすい職場作り＞

○教職員満足度調査では、「校務へのやりがい・楽しみ」を感じている教職員は、「満足」及び「やや満足」と回答した教職員は、全体の85%以上を占め、業務に前向きに取り組んでいるという結果であった。しかし、昨年度と同様、「教職員個人の業務配分の偏りがなく適切なものとなっている」という項目では、自宅での持ち帰り業務や時間外の業務があると回答している教職員が多く、勤務時間が月45時間を超えた職員もおり改善が図られなかった。

●引き続き、勤務時間の縮減や業務の偏り、職場の協力・応援体制がとれるよう改善を図る必要がある。具体的には、学年集団においての業務精選や学年を超えた応援体制がとれる仕組みについて検討する必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向

＜教職員満足度調査について＞

○「改善すべき点があればすぐに提案できる雰囲気がある」という項目のポイントが低い。「改善提案活動」など毎月教職員から改善を提案しやすいような仕組みづくりを検討してみてもどうか。

●改善できるものから積極的に取り組んでいく仕組みを検討する。

＜共生社会の実現 交流及び共同学習について＞

○高等学校と併設している特別支援学校は他にはない特色である。特別支援学校の生徒にとって、卒業後は守られている環境ばかりではない。社会に出た際にいろいろな人と接する準備となる。

●引き続き、共同学習のメリットを追求した教育活動を実践する。

＜地域との連携について＞

○評価委員を担当するまで、特別支援学校でどのような取組がなされているか、知らなかった。学校見学を通して、生徒が作った製品を知った。新型コロナウイルス感染症の収束後には、地域の催しに積極的に作品や製品を出展し、学校の存在をアピールし、多

	くの人に特別支援学校のことを理解してもらいたい。 ●引き続き、地域の学校であることを意識した開かれた教育活動を実践する。 ＜中学部の移転について＞ ○小学校、中学校では、学校間交流や居住地校交流の取組ではさまざまなことを学ばせていただいている。今後、移転について具体的な内容が定まってきたら、情報交換する場を設定してほしい。 ●地域との連携を図り、移転後の教育活動についての情報交換の場を設定する。
--	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・引き続き、校内の現状を把握し、目指す姿の実現に向けた教育活動に取り組む。 ・ＩＣＴ機器の活用推進計画を作成し、活用事例の蓄積を行い全教職員でＩＣＴ機器の活用を進める。 ・引き続き、石薬師分校の取組が理解されるよう、交流や地域への掲示物、地域での販売活動など理解啓発を行うとともに、交流及び共同学習の充実を図る。
学校運営についての改善策	・中学部移転の体制を構築するとともに地域との連携を図る。また、スムーズな移転を実現するため組織全体で取り組む。 ・引き続き、信頼される学校であるための行動計画に基づき、不祥事の根絶と県民からの信頼回復に向けた組織運営ができるよう、年間を通じた定期的な校内研修等に取り組む。 ・勤務時間の縮減や業務の偏り、学年を超えた応援体制がとれるような組織体制の仕組みを構築する。 ・引き続き、管理職がリーダーシップをとり、相談しやすい職場環境づくり、ハラスメントのない職場づくりに取り組む。